【水源地文化の発信を】

Q.秋本議員：津久井地区は水源地としての歴史があり、貴重な文化遺産とも言える施設等が数多く存在しています。津久井中央公民館前にある噴水塔は、明治２０年、横浜水道が我が国初の近代水道として完成したことを記念して横浜に設置された噴水塔を複製したもので、横浜水道創設１００周年に当たる昭和６２年に横浜市から水源地である旧津久井町に寄贈されました。また、城山ダム等の完成までのプロセスを撮影した５６年前の貴重なドキュメンタリー映画が市の視聴覚ライブラリーに保管されています。国土開発映画コンクール準優秀賞の映画「えい智の結晶」です。こうした貴重な資源を地域の方々の学びに活用について考えを伺います。

A.答弁：水源地域の貴重な歴史や文化の継承は重要であり、記録映画などの資源を活用し、水源地域の歴史などを学ぶ機会を提供してまいります。

［２問目］

Q.秋本議員：学びを提供する具体的な方法として、例えば、水源地の歴史を知るための施設見学や史跡めぐり、パネル展示を。ドキュメンタリー映画は、上映会や施設のロビーでの放映などが効果的であると考えますが。

A.答弁：噴水等やドキュメンタリー映画は我が国初の近代水道である横浜水道と本市が歩んできた歴史や津久井湖の成り立ちを学ぶ上で貴重な資源。ご提案いただいた方法も含め、活用を図ってまいります。

［要望］

本市、青山の取水口から横浜まで全長４４㎞引かれた導水管は「水道道」として今も市民の皆様に親しまれています。青山水源事務所には近代水道１００選に選ばれた国登録有形文化財である旧青山取水口と沈殿池といった施設が現存しております。

また、ドキュメンタリー映画は約６０年前の三井地区や中沢地区等が映し出される貴重なもので、当時20代前半だった方々が現在は８０代になっており、きっと懐かしく見ていただけるはずです。若い世代にとっても城山ダム建設が神奈川県民の水瓶となる一大プロジェクトであったことが分かる見ごたえのあるものだと思います。

近代水道の幕開けの源、神奈川県民の水瓶、相模原市の抱える水源は大いに誇れるものとして市民の皆様の相模原市に対する郷土愛、シビックプライド醸成につながると考えます。市による、さらなる発信を要望します。